

東光寺たより 56

ご飯はまだか？

僧堂は色々な役職や部署が有り、小生はまずは料理を作る部署（典座）に配属されました。余程のしっかり者でもなければ、勤まらない。信者さんから頂戴した米や食材を無駄なく使う訳ですからね。ですが実際はちょっと違って、習うより慣れよと言いますか、まずはさせてみる的な配属でしたでしょうか？包丁を持った事のないヤツがいきなり料理せよですからね。路頭に迷いました。ですので、野菜料理の本や食材辞典を買って勉強しました。そうこうして役目を全うして、後年は苦勞した分、大いに助かりました。下手こいた時や怒られたのが今の糧になっており、この文章のタイトルにも繋がっている訳です。



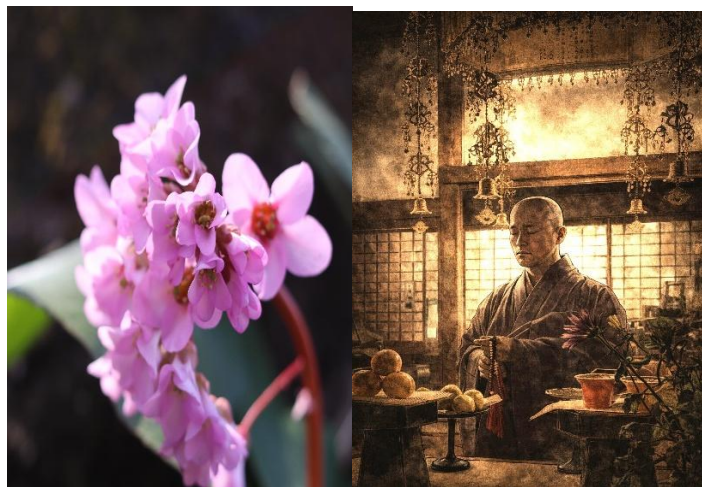
業者さん紹介♪

当山の墓地はほぼ、町内の細野墓石店さんをお願いしております。迅速な対応はもちろんの事、境内の環境整備に一役買ってもらっております。これからもお願いいたしますね。



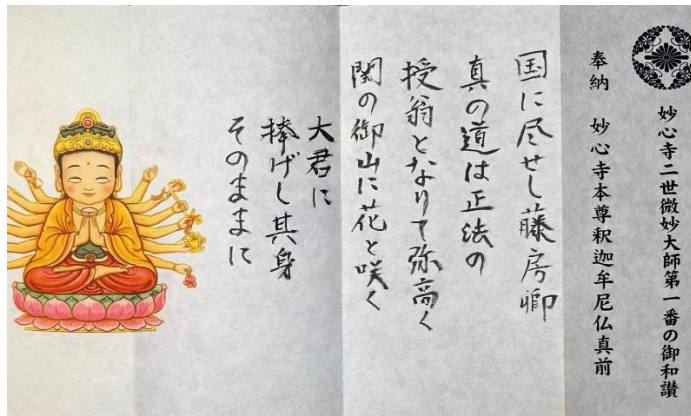
新亡供養の案内

令和7年度にお亡くなりになった方の供養を本山で来る6/28に厳修しますと此度も表記の案内が届きました。関係各位の皆さんには案内が届くと思いますので、よろしくをお願いします。6/28に住職もお参りする予定です。住職も及ばずながら前年度はお参りが叶わない方の代理で本山へと赴き、祈りを捧げてまいりました。管長さんのお話を聞いてハッと思う所が有り、参加出来て良かったと思えた一刻でした。



写経のお願い♪

本山より来る令和9年に2世微妙大師の遠忌に向けて表記のお願いが参りました。本山に奉納して遠忌の供養の一つ参加をお願いします。画の写経は住職が実際に行ったもので、皆さんにお願いするのであれば、まずは自ら実践して行わねばなりません。実際書いてみて、決して長い時間ではございませんが、向き合う時間というのは有限でもあり無限の時間が流れました。不思議な感覚を憶えたのであります。



走れ隆英山♪

前回の続きより・・・僧堂の食事は正式なスタイルを取るならば供給する係の者が万事対応します。これが厳格なルールに乗っ取り供給する者は手順を覚えねばなりません。加えて罵声等も飛び交うのもしばしば。小生もよく怒られました。皆は着座すると直ぐ食事のためのお経や偶(げ)が唱えられ、その間に手早く各自持参の持鉢(じはつ・五つ重ねの漆器のお椀)を作法に従って広げる。供給係に当たった小生はまさにタイトルの如く的心境。食事を供給する係の者が最後に走る一刻があるのですが、走らないと怒られるのです。このように厳格な作法、最低限の食生活のなかに最高の感謝を込めて行われる飯台座(供給係)にカッコ悪くてもいい。最後に走り出せば、それでいいんだ的な世界がそこに有るんだと昔を懐古したいと思います。



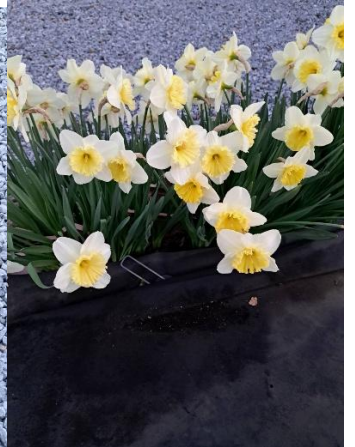
50回忌のお勤め♪

遠いところではございますが、当山に表記のお勤めを依頼された信者さんがみえまして厳修しました。当日は天気も良く、山門の脇にはピンクの花が咲き誇り、いよいよ春の到来を知らせる風光でした。



春といえば・・・♪

表記のお題・・・春といえば、住職は春の開花であったり畑仕事を連想します。此度、総代さんが畑仕事の画を送って下さり、住職も畑仕事に精を出していた雲水時代を思い出しました。野菜も花も水や空気、日光は元より愛情を以て育てる事の大事さ教えてくれています。きっと豊作間違いありません。収穫を見守りたいと思いますし作業お疲れ様でした。



不審花開今日春

いぶかし はなひらく こんにちのはると読みます。いぶかしとは不思議に思う心。花が咲くのを見て自然の節理への畏敬の念であったり季節は巡るといった感情に気付けるかどうか?おそらく春が来たなあ・・・花粉症の季節だなあとかいやだなあと思う事で関の山な住職ですが、こうした花開く画を観ては季節の移ろいを感じる事の有難さ。目に見えないスケジュールに乗っ取って花は無心に咲く、こうした無為自然をたよりに綴る事で少しは触れる事が出来て、綴り続ける事で何かしらを得て行こうと思います。

文責東光寺 英隆